柘植地域
まちづくりだより
第274号

発行　柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地
（柘植地区市民センター内）
〒五一九-一四〇二
電話 四五-八八八〇　FAX 四五-八八八三
発行日　２０２１（令和３）年１１月１日（月）

『コロナ後』を見据えて

「新型コロナウイルス」の出現以来、世界で２億４３００万人が感染し、４９４万人が死亡。日本では１７２万人が感染し１万８千人超が死亡。世界中がコロナの脅威に震撼し「マスク生活」を余儀無くされる「異様な日々」が２年に渡り続いて来ました。

今夏８月「第５波」のピーク時は、１日の感染者数が全国で２万５千人を上回る等過去に無い規模でしたが、９月中旬以降、急減。１０月下旬には東京都で数十人に為る迄減り続け、全国でも２百人台前後まで減少。三重県でも数人レベルと劇的に急減。此処迄急速に減少したのは何故か？要因として挙げられる点を列挙すれば、

❶ 最大の対策たる「ワクチン接種」が加速度的に進み２回目の接種率が全人口の半数を超え、高齢者では９割超が接種を終えて居り、更に懸案だった若い世代の接種率が５割前後迄高まった点が先ず挙げられます。

❷ 次に「夏休み」や「お盆休み」等、人の集中・移動、所謂「人流」が増え、活発に活動する時期が過ぎ、『感染拡大要素』が大幅に減少した事も背景に有る様です。

❸ 感染しても入院も出来ず、自宅待機を迫られた挙句、自宅で亡く為る人が出る等、医療が危機的な状況「医療崩壊」が現実のものと為った旨、連日報道された事。

此の現実に人々の間で危機感が高まり、国民全体が更に感染対策に協力する様に為ったと分析されて居ます。

❹ 天候の影響・・・気温が下がって「屋外」での活動がし易く為り、感染が起き易い狭い空間での接触機会が減った可能性が有る。

等々の要因が推測されるも、どの要因が、どの程度「感染減少」に寄与したのか科学的な根拠は未だ無く「集団免疫」獲得説も有り更に検証が必要とされている次第です。

年末年始に掛け「第６波」の到来が来るやも知れず、もう暫くは引き続き感染対策を怠らず、「ワクチン」の常備と「治療薬」の早期開発・承認が待たれるところです。そして何より「マスク生活」と訣別する日が一日も早く訪れる事を切望する次第です。

【リバウンド阻止 重点期間】下、黄色にライトアップされた上野城

拓植地域俳句コーナー

青空へ　風船ゆらぐ　七五三　石河 宏子

【三重県緊急事態措置】は、９月３０日を以って解除されましたが、１０月１日～１４日迄【三重県リバウンド阻止重点期間】として設定されました。

其れに伴う措置として、上野城が「赤色」から「黄色」に変更されてライトアップ。其の模様を、上野市内で撮影しました。

▲柘植保育園にて、ハロウィンに向けてカボチャの置物を健康福祉部会からプレゼント。１０月１８日、増岡茂樹部会長松山武宏さん、松山隆治さんの３名が寄贈に訪れ、保育園児に披露したスナップ皆んな大喜びの様子。

「部会活動」再開相次ぐ

コロナ後を見据えて、１０月以降、柘植地域まちづくり協議会の各「部会活動」等も従来の動きを取り戻しつつ有ります。

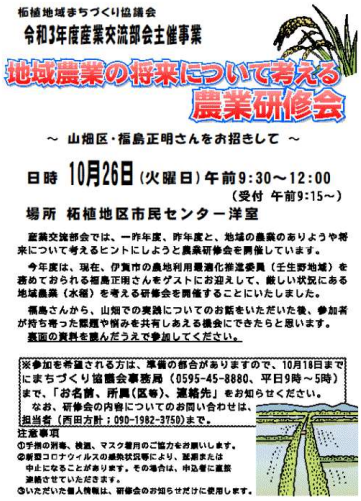
１０月に入り、市民センターで開催した部会として、１０月５日夜「教育文化部会」〈松山文雄部会長〉、翌６日夜「健康福祉部会」〈増岡茂樹部会長〉、８日夜「生活環境部会」〈堀田 穂部会長〉１４日夜「産業交流部会」〈林田一雄部会長〉、翌１５日夜「スポーツ推進委員会」〈中川秀紀委員長〉、１７日午前「防災事務局会議」〈服部文昭事務局長〉等々が実施されました。

更に、２６日午前中「産業交流部会主催事業」として『地域農業の将来について考える農業研修会』、同日２６日夜「人権啓発推進委員会」に依る《地区別懇談会・中間報告会》が実施され、翌々日の２８日夜「柘植まち協・運営委員会」が開催されました。

柘植地域の農業について考える会

産業交流部会では２年前から地域の農業の在り様や将来について考えるヒントにしようと「農業研修会」を開催して居ます。

今年度は伊賀市の農地利用最適化推進委員（壬生野地域）の福島正明さんをお招きして、厳しい状況にある地域農業（水稲）を考える研修会を開催した次第です。



新「民生委員・児童委員」選任の件

◆１０月１２日に開催された『１２区連絡協議会』に於いて伊賀市健康福祉部次長兼医療福祉政策課 中川課長より左記説明有り「民生委員法に基づく現民生委員・児童委員の任期が令和４年十一月末日で任期満了と為り翌日十二月一日から３年間、新たな任期で委嘱される為、次期候補者（再任可）を住民自治協議会から推薦戴く運びと為ります。柘植地区の民生委員・児童委員は現在定数通りの１２名が選任されて居ります。」と冒頭挨拶後、本件に関する主旨説明が有りました。

▼柘植地区・現状【世帯数】１４１２世帯【人口】３２８４人（内、６５歳以上人口１４１５人・高齢化率４３％）〈伊賀市高齢化率３３％・全国２９％〉（１２歳未満人口 ２２７人・７％）〈令和３年３月末現在〉

令和三年度「しぐれ忌」の御案内

芭蕉翁の遺徳を偲び、山出区では、毎年十一月十二日〈芭蕉さんの命日〉に因み、「しぐれ忌」を開催し、翁の偉業を顕彰して居ます。

【開催日時】　十一月十二日（金）
午前九時半～午前十一時半

【会場】　萬壽寺　〈伊賀市柘植町山出〉

【主催】伊賀市/公益財団法人芭蕉翁顕彰会

【後援】俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進委員会

【協賛】山出区しぐれ忌協賛事業実行委員会主催に依る「記念講演」を開催

《演題》『芭蕉翁と古人』

《講師》服部温子さん/芭蕉翁記念館学芸員

十一月度「部会活動」の御案内

◆一一月一４日（日）「生活環境部会」に依る『川上ダム湛水前特別見学会』

◆一一月２一日（日）「健康福祉部会」と「教育文化部会」共催に依る『柘植地内ウオーキング』

◆一一月２８日（日）「産業交流部会」に依る『ミツマタ植樹』を「霊山」で予定

『未来の山づくり事業』がスタートします。是非共、皆様の参画をお待ちして居ります。

ミツマタ群生の様子（津市美杉町）

センターの印刷機を更新

旧来の「輪転機」の故障が頻発し、内部部品の交換修理が相次ぐ事態と為りました。市民センター竣工〈２０一０年３月〉直後に導入された為、稼働後十一年半経過して居り、機械寿命が迫っていた為、今般印刷機を、エプソン・インクジェットプリンター（複合機）に更新、リース契約（６年）

従来の「輪転機」と「コピー機」〈東芝〉の２台分を当機一台で賄う事が出来る為、トータルランニングコストが減少しました。本更新に拠り、コストダウンが図れ、時代に即した印刷環境が実現出来る次第です。

【仕様】印刷スピードは、レーザー方式を凌駕する一分間に一００枚の高速プリント

【お知らせ】・・鉄道ＯＢ会・柘植支部ではペンキ塗りボランティアを募集します。３年毎に「余野公園のＳＬ」のペンキ塗り替え作業〈清掃・上塗り〉を実施して居り今年は十一月十一日に行います。

詳細は、柘植支部事務長・松山隆治さん迄〈連絡先〉０９０・７９５２・００５５

アトランティックジャイアント・・巨大カボチャが登場

市民センター玄関に置かれて居る巨大カボチャは、「西洋カボチャ」の変種で通称『アトランティックジャイアント』と呼ばれて居るオバケカボチャです。

此のカボチャは、松山武宏さんと松山隆治さんが、センターと、いこいこカフェ・保育園に持って来られ、訪れる人達の目を楽しませてくれて居ます。

松山武宏さん曰く「此の種から発芽した苗を希望者に配り、来年大きさを競うコンテストを開催出来ればいいなぁ。」と仰って居られ、「まちおこし」の一環として、盛り上がるイベントに成ると思われます。因みに、２０１６年１０月、ドイツで開催された最も重いカボチャを決めるイベントではベルギーの人が育てた同種のモノで何と１１９０kgも有り初めて１トンを超える世界新記録〈ギネス〉と成りました。

『四季桜』センターで満開

秋から冬に掛けてと春にも咲く二季咲き桜。「十月桜」〈八重〉と同様、『冬桜』の一種の「四季桜」〈一重〉が今年もセンター西側のフェンス沿いに可憐な花を咲かせて居ます。満開の秋咲き桜、御覧下さい。

★☆ 編集後記 ☆★

▼ 秋の田の 刈穂の庵の 苫をあらみ 我が衣手は 露に濡れつつ 〈天智天皇〉

▼ 奥山に 紅葉踏み分け 鳴く鹿の 声聞く時ぞ 秋は悲しき 〈猿丸太夫〉

▼ 千早（ちはや）ぶる 神代（かみよ）も聞かず 龍田川 唐紅（からくれなゐ）に 水くくるとは 〈在原業平〉

▼ 月見れば 千々（ちぢ）にものこそ 悲しけれ 我が身ひとつの 秋にはあらねど 〈大江千里〉

▼ 寂しさに 宿を立ち出でて 眺むれば いづこも同じ 秋の夕暮れ 〈良暹法師〉

小倉百人一首』から有名な「秋」の名歌を五首、挙げました。変わって行くものと変わらないものが「短歌」の世界には映し出されて居ますが、「自然に触れて感動する心」「心の琴線に触れる言葉」は、時代を経ても変わらず、不変です。

私事で誠に恐縮では御座居ますが、本日十一月一日を以って、着任後一年が経過致しました。皆々様方の御指導と御鞭撻のお蔭と深く感謝申し上げます。

今後もセンター諸業務と当新聞の作成等々精一杯注力させて戴く所存で御座居ます。甚だ微力とは存じますが、今後共何卒宜敷く御願い申し上げます。〈清水〉